



No.30

げんきカエル



こども病院ニュースレター

あなたの笑顔は、こどもの輝く笑顔を引き出す



看護部長 成田 康子

設立40周年に当たる今年の4月にこども病院に赴任しました。診療報酬も小児医療に追い風が吹き、経営も黒字化した時期にこども病院の仲間に入れたことを、嬉しく、また身の引き締まる思いで受け止めています。

病棟ラウンドをして、個々のスタッフが提供している看護から小児看護の真髄を感じました。小児看護は、何も言えない、訴えることのできない対象の異常に気付き、思いをくみ取りケアを展開してゆく、これぞ、まさに看護の原点である「共感し寄り添う」看護の実践だと肌で感じました。そこで、心にうかんだキーワードが「見る・護る・伝える・つなぐ」です。手と目と心でこどもを「見る」、こどもの安全と安心を「護る」、そして、限られた面会時間の中で、親の思いと心をこどもへ伝え、こどもの頑張りや心を親に「伝える」、親と離れていた時間を看護で「つなぐ」、病院の看護を地域へ「つなぐ」、そんな看護が実践されていると感動しました。そして、「小児看護」は「笑児(わらこ)看護」 ☆こどもと親の輝く笑顔を引き出そう!! ☆こどもの成長と発達に無くてはならない笑顔を看護部のスローガンにしました。

それと同時に、管理者である私の仕事は、そんな看護が提供できるスタッフの笑顔を引き出すことだと実感しています。専門職として専門知識と技術に裏づけられた笑顔、チーム医療と多職種との協働の中で確立されてゆく笑顔、それらが統合されて、「凛とした専門職としての笑顔」になってゆくのだ

と思います。そのためには、スタッフ1人1人が本来持っている力が最大限に発揮できる環境を整え、個々の能力をうまく活かす場を作るチーム作りが大切だと考えています。医療環境の変化に柔軟に対応してゆける持久力のある組織作りのためには、異なる意見や価値観をぶつけあわせ、問題の本質を共有しみんなが納得できる「合意形成」¹⁾ができる話し合いの絶えない組織作りを目指したいです。第一歩として、部署の目標立案にSWOT分析をもらい、看護長・看護長補佐と看護部次長・看護部長とで今年度の目標面接を実施しました。

さて、話は変わりますが、ある日、雑誌をめくっていたら、「かえる岩」の記事。「元気かえる」のこども病院に通じる記事です。行ってきましたあー!!兵庫県の香住の海岸に、こども病院のかわいい「かえる」と打って変って、勇壮で強そうな「大かえる」で、「カエル岩は、帰る・変える～願いが叶う岩」と書かれてありました。卵からオタマジャクシ、蛙へと姿形を変えながら進化し、自由自在にピョンピョン飛びまわるカエルのように、自分を変えながら進化し夢を叶える。

そんなパワーを貰えた気がしました。みなさまも機会があったらどうぞ(笑)。



¹⁾ 経営学：チーム・ファシリテーション、朝日新聞社出版、2010

平成22年度

診療報酬改定のポイントについて

医事課長 山上 美和

患者様が病院等の医療機関で診療を受けたときに、支払う公定料金を定めたものが、診療報酬です。おおよそ、2年に1回の割合で改定されますが、本年がその改定の時期です。

今回の改定では、重点課題として「救急、産科、小児、外科等の医療の再建」と「病院勤務医の負担の軽減」が掲げられています。

当院に関係するところでは、産科で妊娠22週から32週未満の早産などの分娩管理を評価しているハイリスク分娩管理加算について、対象に多胎妊娠と子宮内胎児発育遅延を加えるとともに1日につき2,000点から3,000点へ評価が引き上げられました。

また、NICUでは、新生児特定集中治療室管理料

の評価が1日につき8,500点から10,000点に引き上げられるとともに、NICUが満床時に緊急受け入れのために、やむを得ず、一時的に定員超過入院となる場合や、症状の増悪等により再入室する場合に配慮した評価となっています。

その他に、手術に対する乳幼児加算が3歳までが対象だったのが、対象年齢が6歳未満にまで拡大されました。

このように、産科や小児、救急に対する医療について、社会的に重要性が見直されている昨今、これに関わる私たちもその期待に応えられるよう業務に励みたいと思います。

病理検査室の圧力鍋

検査部 川畑 順子

病理検査室では圧力なべが湯気を立てている。中には美味しい料理ではなく、免疫染色の標本が入っているのです。免疫染色とは組織中の抗原(調査したい物)を抗体試薬を使って染め出します。この方法で組織の起源やガンの種類、病原体の有無など、通常の染色では見えなかった物が染め出され、病理診断に不可欠な検査となっています。例えば(写真1)はサイトメガロウイルスに感染した細胞が染色されています。昨年3月に自動免疫染色装置(写真2)が導入され、冒頭の圧力なべも活躍し、より早く確実に免疫染色が出来るようになりました。今後も良い標本作りを目指し、皆様に安心して頂ける医療を提供いたします。

写真1

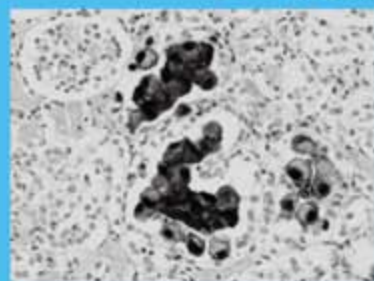


写真2





腎臓内科の紹介

腎臓内科 神田 杏子

腎生検という言葉を知っていますか？

腎臓の病気というのは、血液検査や尿検査などでは確定診断に至らず、腎生検を行うことによって初めて治療方針を決定できる場合が多くあります。腎生検は、簡単に言うと、ボールペンの芯ぐらいの太さの針を背中から腎臓に刺してその一部を取り出して、腎臓の組織の状態を調べる検査です。腎生検の方法には大きく2つあります。超音波を使って腎臓を見ながら針を刺す超音波ガイド下腎生検という方法と、全身麻酔で手術をしてお腹を切開いて腎臓の一部を採取する開放腎生検という方法です。ごく小さいお子さん(1歳以下)、腎機能が悪い場合などを除き、体への負担の少ない超音波ガイド下腎生検を施行しています。

背中から腎臓に針を刺す、というのは大人でも恐怖心を伴いますので、当院では全例に静脈麻酔を使用し、痛みを感じることなく眠っているうちに検査を受けていただいています。腎生検終了後、24時間はベッド上安静が必要です。(トイレも食事も寝たまましなければならず、実はこの24時間のベッド上安静が一番しんどかったという患者さんが多いです。)約1週間入院していただき、腎生検後特に

問題がないことを確認して退院となります。

腎生検は比較的危険の少ない検査ですが、腎臓は心臓から送り出される血液が多量に流れ込む臓器であり、極まれに血管を針で傷つけて出血を起こすことがあります。当院では関連施設も含めてこれまでに2500例以上の腎生検を行ってきましたが、そのうち5例が輸血を必要とするほどの出血がありました。

このようにリスクや負担のある検査なので、腎生検の適応はできるだけ厳しくしていますが、それでも当院で年間約40人の患者さんが腎生検を受けています。腎生検が必要だと他院で言われた方、腎生検につき詳しくお聞きになりたい方は腎臓内科外来にて気軽にご相談ください。



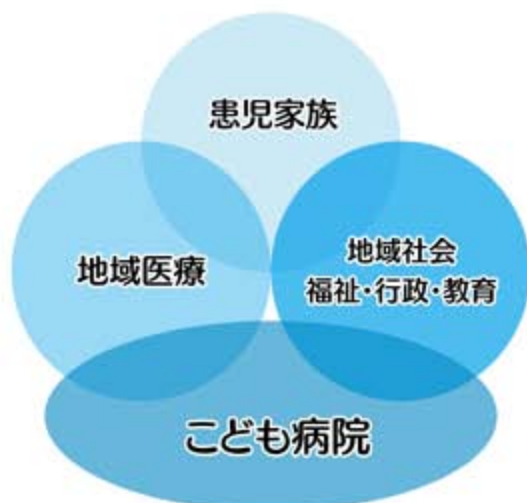
指導相談・地域医療連携部のご紹介

..... 指導相談・地域医療連携部長 宅見 晃子
 平成22年4月から、「指導相談室」と「地域医療連携室」は「指導相談・地域医療連携部」という一つの部として生まれ変わりました。

どこにあって、どんな人がいるの？

周産期センターの2階にある多職種のコレクティブです。

部長(小児科医)、次長(看護師)、保健師 1人、
 看護師 1人、臨床心理士 2人、
 精神保健相談員(PSW) 1人、MSW 1人、
 委託事務員(初診予約業務) 3人



何をしているの？～相談業務と地域との連携業務です～

- 患者様・家族のQOLを高めるための支援を目指しています
 発達相談、育児相談、医療制度の相談、在宅生活の相談等々
- 患者様・家族を中心としたチーム医療の実現を目指しています
 院内各科の連絡調整、地域機関との連絡調整等々

◎相談事がある時、地域との連絡調整が必要な時、まずはお電話を。

Concept

コンセプト

基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。



基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

ジトジト高し暑い中、原稿を集め、新しい委員で最初の発行をしました。
 お手元にお届けするのはあつ～い夏本番になっています。
 げんきカエルも少しずつ変化を遂げ、おかげさまで第30号の発行になりました。
 今後も地域のみなさま方に新しいニュースをお伝えできるように委員一同頑張ります。
 ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

編集委員長: 橋本ひとみ
 編集委員: 田中亮二郎 木村 弘子 武川 元美
 谷本江利子 四元 寿江 服部 真吾
 赤松 規子 長尾 洋

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
 TEL 078-732-6961
 FAX 078-735-0910(総務課)
 FAX 078-732-6980(予約センター)
 URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
 E-MAIL: info_kch@hp.pref.hyogo.jp